



## 骨折予防に 骨粗鬆症治療が必要です。 ご協力をお願いします。



整形外科部長 永嶋 恵子  
(ながしま けいこ)

平成4年 金沢大学整形外科入局以降、富山県立高志学園、石川県立中央病院、富山済生会高岡病院、小松市民病院などに勤務  
平成25年～ 加賀市民病院 加賀市医療センター

日本整形外科学会専門医  
臨床研修指導医

高齢化社会の到来といわれて久しいですが、最近は90代の方も珍しくない超高齢化社会となってきています。これに伴い、全国的にもますます高齢者の骨折が多くなってきています。当科でも年間300~400例の骨折手術、それ以外に外来および入院にて保存的治療を行う骨折症例を経験しています。

従来、高齢者つまり骨粗鬆症患者さんの骨折として多いのは脊椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位部骨折が挙げられます。しかし、近年では大腿骨遠位部骨折や上腕骨遠位部骨折を発症する患者さんも増えてきています。また、複数回骨折している方が増加傾向であり、その影響で以前の骨折に対する治療として挿入したインプラント周囲での骨折をきたした患者さんが、当院での臨床場面でも増加していると感じています。

このため、骨折そのものの治療のみならず、骨折予防の治療が必要であることは自明のことです。

骨折予防、つまり骨粗鬆症の内服薬としてはビスホスホネート製剤、カルシウム薬、活性型ビタミンD3薬、ビタミンK2薬、SERM、また注射製剤としてテリパラチド、デノスマブ、ロモゾマブがあります。その中で脊椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折の予防にエビデンスがある治療薬とは、ビスホスホネート製剤、テリパラチド、抗RANKL抗体のデノスマブおよびヒト化抗スクレロスチンモノクローナル抗体であるロモゾマブとなります。

当科でも骨折で入院された方に骨粗鬆症治療を開始するようにしています。しかし、入院中骨粗鬆症治療を導入・継続しても、当院退院後はご高齢ということもあってなかなか当院への通院が難しいことが多く、骨折予防の骨粗鬆症治療の継続ができていない現状です。

このたびの診療報酬改定で、骨粗鬆症リエゾンサービスを評価してもらえるようになるようなので、南加賀地域の骨折予防に対して地域医療を担う諸先生方のお力を貸していただければ幸いです。

### 様々な症例

#### 右大腿骨転子部骨折



室内の段差につまずき受傷  
(87歳・女性)

#### 脊椎圧迫骨折



痛がっていたので検査したら  
発覚 (92歳・女性)

#### 橈骨・尺骨遠位端骨折

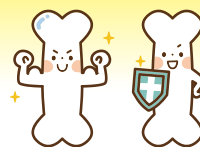
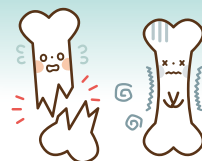


動けないところを発見  
(92歳・女性)

#### 大腿骨頸部骨折



自宅廊下で転倒し受傷  
(78歳・女性)



基本  
理念

「おもいやり」

私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります



基本  
方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送はことわず受け入れます
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

基本方針を見直しました(令和4年1月1日から)

平成28年4月1日に加賀市医療センターが開院し5年が経過しました。

この間、基本理念「おもいやり」と4つの基本方針のもと、地域医療の中核病院として医療提供を行ってまいりました。

今回、基本理念および基本方針について、見直しを行いました。

現在、ほとんどの救急搬送をお断りすることなく受け入れることができていることから、『救急搬送をことわらない体制を目指す』を『救急搬送はことわず受け入れます』と変更し、今後も体制を継続していくことを方針に表しました。

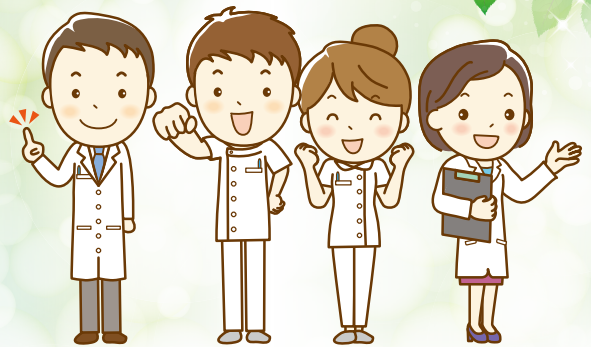
また、その他の項目については従前どおりとし、これからも更なる充実を目指します。



病院機能評価受審にむけて

開院して6年目を迎えている当院では、運営管理や提供される医療についての更なる改善活動を推進し、診療体制の一層の充実や医療の質向上を図るため、病院専門の第三者評価として病院機能評価を受審する準備を進めています。

受審自体もさることながら、その準備段階において得られる『現状の客観的把握』『改善のきっかけづくり』『改善の方向と目標の設定』『改善意欲の醸成』を大切に考え、職員が一致団結して地域医療への更なる貢献を目指しています。



加賀市在宅医療連携推進協議会 & 加賀脳卒中地域連携協議会【第5弾】コラボ研修



1月27日に医療と介護の加賀脳卒中連携パスコラボ研修が開催され、50名近い方々の参加がありました。『自宅退院後の生活機能維持をみんなで考えよう』というテーマで、脳出血で右片麻痺があり糖尿病とアルコール依存がある難事例を、生活期においてどのような困りごとが起こるか、脳卒中連携パスをもとに意見交換しました。

グループワーク自体で問題の解決はできなくても、参加者の責任分担やお祝い効果などがあるという講義も受け、「納得」の研修会となりました。

地域連携オンライン症例検討会

2月10日に第10回地域連携オンライン症例検討会が行われました。

今回は2年目基幹研修医の2症例でした。コロナ禍の中、地域の医師たちとの交流がないまま2年が過ぎた彼らに声をきかせてほしいとの声かけに、院外9名、院内18名の参加がありました。活発な意見交換もあり、有意義な時間となりました。



ケーススタディ

看護部教育委員会では、「専門的な知識、技術を看護実践に活かし自己の看護観を深める」ために、2年目看護師は受け持ち患者のケーススタディ発表をします。今年度も10人が症例をまとめあげました。

看護部一同は、2年目看護師の頑張りをたたえ、今後の更なる成長を願ってやみません。

